

北斎の情報発信基地——すみだ北斎美術館を訪ねて

取材：帝国書院

2016年11月22日、東京都墨田区・両国駅ほど近くにすみだ北斎美術館がオープンした。ここは、江戸時代の浮世絵師・葛飾北斎(1760～1849年)が生まれた本所割下水に近い、いわば生誕の地。そして、90回以上引っ越しを繰り返しながらも生涯のほとんどを過ごしたこの墨田区は、「富嶽三十六景」や『北斎漫画』などの多くの優れた作品のなかにも描き込まれているゆかりの深い地である。

すみだ北斎美術館は、北斎作品の世界的コレクター・ピーター・モース氏および日本の浮世絵研究の第一人者・檜崎宗重氏の寄贈作品と、墨田区の収集作品が大きな柱である。この北斎とその門人たちの約1800点にも及ぶ秀逸な収蔵作品を中心にさまざまなテーマで企画展を開催。開館記念展Ⅲ「てくてく東海道 北斎と旅する五十三次」(会期2017年4/18～6/11)では、歌川広重より30年も早く手掛けた東海道五十三次シリーズを複数展示し、風景だけにとどまらず、土地の風俗や名物などを描いた北斎浮世絵がもつ資料的価値も紹介した。

常設展示室では北斎の生涯を7つに分け、墨田区とのつながりや、浮世絵師・勝川春章門下時代の初期作品から絵手本、錦絵、晩年の肉筆画まで、幅広いジャンルと画風の変遷を見ながら70年の画業全体をわかりやすくたどることができる(展示は実物大高精細レプリカ)。タッチパネル式の端末で作品解説や年表なども読み、北斎とその作品に関する知識を深められる。

図書室も備えており、北斎と浮世絵を中心とした文献、画集のほか

常設展示の端末上では、絵手本をめくって見たり、北斎画を使ったゲームも楽しめる



「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」(1831年ごろ、すみだ北斎美術館蔵)は北斎の代表作の一つ。この「富嶽三十六景」により浮世絵に風景画のジャンルが誕生した(常設展示解説より)

洋書もそろえ、専門図書室として豊富な蔵書をもつ(閲覧は無料)。

今年4月末には開館から5か月あまりで入館者が20万人をこえ、外国人観光客も多く訪れる下町の新しい人気スポットとなった。北斎の情報発信基地として、文化・芸術の振興、教育普及と地域活性化をにない、さらに親しまれる美術館をめざしている。

現在は、開館記念展Ⅳ「北斎×富士 ～富嶽三十六景 富嶽百景 揃いぶみ～」(～8/20)を開催中。



©Forward Stroke

すみだ北斎美術館

妹島和世氏設計の建物は、柱や壁が斜めの斬新な建築。企画展示室は3、4階、常設展示室は4階。1階に図書室、講座室。



©Forward Stroke

- 住所 東京都墨田区亀沢二丁目7番2号
- お問い合わせ 電話：03-5777-8600(ハローダイヤル)
- 開館時間 午前9時30分～午後5時30分(入館は閉館の30分前まで)
- 休館日 毎週月曜日
 - ※月曜日が祝日、または振替休日の場合はその翌平日、年末年始
- 観覧料 常設展観覧料：大人400円 企画展観覧料：企画展ごとに設定
- 公式ホームページURL <http://hokusai-museum.jp>
- 交通 都営地下鉄大江戸線「両国駅」A3出口より徒歩5分
JR総武線「両国駅」東口より徒歩9分
JR総武線「錦糸町駅」北口より墨田区内循環バスで5分